

## 第4回 明石市小中一貫教育検討委員会 議事録

日 時：平成28年1月19日(火)15:00～

場 所：教育委員会室

出席者：21名（委員10名、事務局11名）

傍聴者：4名

◎：委員長   ○：委員   ●：事務局

### 1 開会

- ・配布資料の確認

【資料1】「明石市における小中一貫教育の在り方について」（案）に対する市民意見及び市教育委員会の考え方

【資料2】明石市における小中一貫教育の在り方について（最終案）、見え消し版

【資料3】明石市における小中一貫教育の在り方について（概要版）

【資料4】平成28年度小中一貫教育推進事業について（案）

【資料5】平成25・26・27年度明石市教育委員会指定「校区UNITを活用した小中連携の在り方」研究紀要

【資料6】小中一貫教育の制度化について

- ・第3回議事録の明石市教育委員会ホームページ掲載について

### 2 本日の検討委員会について

### 3 傍聴者入場

佐藤委員長への確認、了承 4名入場

### 4 報告

□市民意見（パブリックコメント）について

#### ●事務局説明

第3回検討委員会で協議した「明石市における小中一貫教育の在り方」（案）に対する市民からの意見概要及び市教育委員会の考えについて報告（平成27年11月2日から11月20日まで意見を募集し、一般市民、現職及び退職教員27名の方から、41件の意見をいただく）

- ・（1）あかし教育プランとの関わりについて、「明石市における小中一貫教育の在り方」との関わりを感じないという意見があった。  
→「明石市における小中一貫教育の在り方」の「はじめに」において、あかし教育プランとの関わりについて追記しました。
- ・（2）学びと育ちの接続、（3）「中1ギャップ」の解消については、中学校区で到達目標を設定すること、学習指導や生徒指導の手だてを共有すること等、（案）に示した内容に賛同する意見が多かった。  
→最終案に基づき、学力向上を図るために小中一貫教育を推進することや、そのために、「学び」と「育ち」の接続、「ひと」のつながりを視点として今後とも取り組んでいく考えを示しています。

- ・(4) 教職員の意識改革・資質向上については、二見中学校区の実践と成果の普及、研修の場の設定を通して意識を高めていくこと、(5) 地域の参画については、情報発信に努め、学校・地域・保護者が連携する「ひと」のつながりを大切にしてい
- く旨を示しています。
- ・(6) 二見中学校区の実践の深化、(7) 校区UNITの発展、(8) 中学校区に実態や現状に応じて取組を進めることについては、二見中学校区の実践と成果の普及とともに、小中一貫教育の意義や必要性について周知していくこと、現在行われている校区UNIT会議を発展させ、各中学校区の実態に応じた小中一貫教育を進めることを示しています。
- ・(9) モデル校区、(10) 教員の負担軽減・行政の支援、(11) 今後の進め方については、小中一貫教育モデル校区の研究指定とともに、教育委員会がコーディネーターの配置、校内推進体制の組織づくりの支援に努めること等を示す。また、今後、「明石市における小中一貫教育の在り方」に基づき、具体的な推進計画を作成していくという考えを示しています。

以上、「明石市における小中一貫教育の在り方」に基づいたものや、来年度以降の教育委員会の取組等の考え方を示しています。

## 5 協議（概要）

### (1) 「明石市における小中一貫教育の在り方について」（最終案）について

#### ●事務局説明

各委員の皆様からのご意見、パブリックコメントをもとに、最終案としています。（「見え消し版」を参考に、大きく加筆・修正した箇所を説明）

1 ページでは、先ほどのパブリックコメントの説明にありましたように、4つ目の段落において、「あかし教育プラン」との関わりについて下線部を追記しています。

2 ページでは、真ん中あたり及び一番下の行のページ数を訂正しています。これは、参考資料として、「明石市小中一貫教育検討委員会」の開催経過（参考資料4ページ）を挿入したため、後ほど出てくるページ数も訂正しています。

4・5 ページでは、「乗入れ授業」、「相互授業」、「ストップ不登校あかし」について、学校関係者以外の方にも分かりやすくするため、説明を追記しています。

9 ページでは、「内容系統モデル」という言葉が9ページに使われていたため、12ページに表記していた「内容系統モデル」の説明を前に移動して表記しています。

最後に、（見え消し版でない、最終案の参考資料4ページ）先ほど、ページ数の訂正について説明しましたが、4回の検討委員会の内容及びパブリックコメントの概要を表記しています。

細かい文言の訂正があるが、以上が主に加筆・修正した箇所です。

#### 【意見交流】

##### ○委員（質問）

- ・1 ページの「はじめに」の4段目のところで、「幼稚園・保育所、小学校及び中学校の連携した活動づくりに取り組むことが示された・・・」と明記されているが、「認定こども園」は入らないのか。

●事務局（回答）

- ・平成23年に策定された「あかし教育プラン」をもとに記述しているため、その当時の表記のまま記述している。「はじめに」は、今までの経緯を示しているということでご理解いただきたい。
- ・現在、新しい「あかし教育プラン」を作成中である。「はじめに」については、誤解のないよう「平成23年3月に策定された「あかし教育プラン」においては・・・」と記述します。

◎委員長（意見）

- ・12ページの「おわりに」の中の最後の段落の文章に「学校、家庭、地域と手を取り合い」という表現があるが、用語としては「連携して」等の表現に置き換えた方が適切である。

○委員（意見）

- ・学校関係者以外の方にも分かりやすくするため、説明を追記している部分があるのはよいと思うが、3ページに出てくる「中1ギャップ」についてももう少し詳しい説明を入れてほしい。「中1ギャップ」は小中一貫教育を進めるうえで知っておかなければならない大切な用語であり、わかりやすく説明する必要がある。

●事務局（回答）

- ・適切な表現について配慮することや、「中1ギャップ」の説明も入れていきます。
- ・「はじめに」の文章において、平成23年に策定された「あかし教育プラン」について書かれた後に、平成20年度から「校区UNIT会議」を設置したという文章が書かれており、時系列が逆転しています。時系列に従って記述するよう修正を行います。

○委員（質問）

- ・明石市における小中一貫教育の在り方について、二見中学校区が最初のモデル校として始まった経緯を知りたい。

●事務局（回答）

- ・まずは複数の小学校があるという点が挙げられる。1小1中よりも小中連携、小小連携が難しいため、モデル校として最初の研究校としてふさわしいと考えた。さらには、当時の二見中学校区の課題を解決するためには、小中連携を先進的に行うことが必要であるという学校の願いが強かったことが挙げられる。詳しくは校長である副委員長に答えていただければと思います。

○副委員長（回答）

- ・当時の二見中学校は生徒指導をはじめ、多くの課題があった。課題を解決していくためには、小学校との連携が不可欠であるという認識をもち、指定研究を進める以前から、小中連携に取り組んでいた。そして、より一層連携を進めるためには、市の指定を受けて実践することが大切であると考え、指定研究をお願いした経緯がある。

○委員（意見）

- ・二見中学校区の研究発表会に参加したが、一番大切なのは、小中の文化の違いを克服し、教師の思いを一つにすることだと感じた。しかし、そのことを文章に表現するのはなかなか難しい。二見中学校区の実践を反映し、今後の方向性が少しでも示されればよいかと思う。

●事務局（回答）

- ・8ページに二見中学校区の実践について成果も交えてふれています。また、9ページに課題と今後の指定研究の在り方について、10ページに、今後の小中一貫教育の方向性について、二見中学校区の実践をもとに今後も発展させていくことを記述していますので、十分反映されていると考えています。

○副委員長（質問）

- ・今後の方向性ということで、市全体の小中連携の検証は市教委としてどのようにしていこうと考えているのか。

●事務局（回答）

- ・それについては、後ほど、平成28年度小中一貫教育推進事業のところで説明させていただきます。

◎委員長（意見）

- ・委員の方々の意見を反映させるために、細かい部分を事務局と委員長を中心に修正していくということでよいか。

○各委員

- ・異議なし

(2) 明石市における小中一貫教育の在り方について（概要版）について

●事務局説明

前回、委員より、今後、学校現場や市民等に周知するために概要版があった方がよいのではというご意見をいただき、簡潔にまとめたものを作成しました。

「これまでの経緯」では、これまでの校区UNITの取組、「明石市小中一貫教育検討委員会」の設置及び検討内容の概要を示し、次に、「方向性」については、「明石市における小中一貫教育の在り方」に示された「今後の方向性」の4点を挙げ、「学び」「育ち」の接続、「ひと」のつながり、授業改善、UNIT会議の発展、学力の向上等の推進上のキーワードを使って簡潔に説明しています。

「今後の進め方」については、検討委員会で示された方向性をもとに、教育委員会としてモデル校区の指定、推進計画の作成等を通して、小中一貫教育を推進し、本市の子どもたちの「学び」と「育ち」のさらなる向上を図ることとしています。

これまで本会で検討した中身について簡潔にまとめたものです。

●事務局（意見）

- ・概要版についても、先ほど意見が出たように、二見中学校区の実践も入れていきたいと考えますが、いかがですか。

## 【意見交流】

### ○委員（意見）

- ・二見中学校区の実践を入れてもいいが、「なぜ二見中学校区なのか？」という疑問が保護者や地域から出ないか。概要版には特に出す必要はないと思う。
- ・明石市全体の取組という観点で記述すればよいと思う。

### ◎委員長（意見）

- ・概要版なので、シンプルで読み易く、なるべく基本的なものだけを残すような方向で作成してもらいたい。

### ○委員（質問）

- ・10ページの「明石市の今後の方向性」のところで、「育ち」「ひと」等、かぎかっこで強調している部分があるが、これは「あかし教育プラン」で示されている等、特別な意味のある言葉として記述しているのか。

### ●事務局（回答）

- ・明石市として特別な意味のある言葉としてではなく、わかりやすいように、キーワードとしてかぎかっこで示しています。中央に3つ書かれている「学び」「育ち」「ひと」がキーワードであり、今まで本委員会で話し合われてきた中においても大切な言葉だととらえています。

### ○委員（意見）

- ・キーワードとするならば、「育ちの接続」「ひととのつながり」までかぎかっこに入れた方がいいのではないか。

### ●事務局（回答）

- ・キーワードとしての言葉でもありますが、「学び」「育ち」「ひと」は多様な意味合いがあることばだと考えています。事務局として総合的に検討し、最もふさわしい表現で示すことができるよう検討していきます。

### ◎委員長（意見）

- ・文章にするのはなかなか難しい。市民に分かりやすいよう事務局とともにふさわしい表現方法を考えてもらいたい。

### ○委員（質問）

- ・概要版は今後どのように配布し、どういう形で教師や市民に周知していくのか。

### ●事務局（回答）

- ・まずは学校現場に配布し、すべての教職員に周知する。また、市教委のホームページにアップし、保護者や地域にも伝えていく予定です。

### ○委員（意見）

- ・保護者には文章ばかりでは難しいと思う。図で示すなど、もっと見やすいもの、分かりやすいものを作ってもらえればありがたい。

- 事務局（回答）
  - ・検討いたします。

## 6 その他

□「明石市小中一貫教育推進事業」について

### ●事務局説明

- ・「平成28年度小中一貫教育推進事業について（案）」をもとに説明

事業趣旨は、本市の子どもたちの「学び」と「育ち」の更なる向上を図るために、モデル校を指定し調査研究するとともに、教育委員会事務局で具体的な方策を含めた推進計画を作成する等、本市における小中一貫教育を推進するというねらいです。

左側に国の動き、右側に本市の動き、さらに真ん中に本会で検討した今後の方向性を4つ挙げています。それを受けて、まずは「明石市小中一貫教育推進計画（仮称）」を策定するために、今後、各校区で具体的に進めていくための3つの組織を考えています。校区UNIT会議を発展させた「チーム中学校区UNIT会議」、教頭も入り学校現場の代表者や事務局の指導主事で組織し、各チーム中学校区UNIT会議で話し合われたことをまとめる「チーム中学校区UNITプロジェクト会議」、さらには、この会議からの意見もふまえながら、「明石市小中一貫教育推進会議（仮称）」において、各中学校区における小中一貫教育の在り方について検討し、推進計画を考えていきたいです。

また、「小中一貫教育推進モデル校区」として、高丘中学校区で2年間研究を行い、研究発表会を開催し、市内全体に発信します。

最後に情報発信だが、これらの実践及び成果を教職員研修会や研究発表会を実施し、ホームページ等で発信することにより、学校・保護者・地域に周知していきたいと考えています。

### 【意見交流】

#### ○委員（意見）

- ・学校だけでなく、保護者や地域にも情報発信するのであれば、保護者説明会等を計画することも大切であると思う。

#### ●事務局（回答）

- ・保護者会等、保護者が学校に来る機会をとらえて、その中で周知していくのが今の段階ではよいと考えています。各校と連携し進めていきます。

#### ○委員（意見）

- ・学校や担当者に任せるのではなく、市教委が研修会等を計画するなど、すべての教職員に詳しく説明し、意識を高めていく場が必要である。

#### ●事務局（回答）

- ・1学期に実施する市教委の学校園訪問で指導主事から教職員に説明します。また、8月の全教職員研修でも小中一貫教育をテーマに研修会を実施することを計画しています。内容は、本委員会でもまとめた「明石市における小中一貫教育の在り方について」と「平成28年度小中一貫教育推進事業について」を事務局から説明

し、また、二見中学校区の取組を発表してもらいます。さらに、大学教授を講師として迎え、「小中一貫教育」について講演をしていただく予定です。

○委員（意見）

- ・3学期、学校では、校内研究等いろいろな評価が始まっている。校区UNITについては、学校内や各中学校区でかなり温度差があるのではないかと。来年度以降スムーズに進めるためにも、3学期中に管理職、担当者を集めて情報発信してほしい。

●事務局（回答）

- ・2月の校長会で今回の内容について周知します。また、各学校の校区UNIT担当者にも最終の校区ユニット会議で伝える予定です。
- ・推進計画を策定することも大切だが、前段として現場の教職員に周知することや保護者や地域に浸透させていくことも大切だと考えています。

○委員（意見）

- ・浸透させるには非常に時間がかかる。来年度の1年間で準備してもいいぐらいだと思う。また、校区にすべて任せるのではなく、市教委が支援し、途中で内部評価等、具体的な検証の時期を計画する等、具体的な見通しを提示する必要がある。

◎委員長

- ・単発ではなく、データ検証しながら進めていくことが大切である。そのために、市教委は具体的な計画をもって取り組んでほしい。

●教育長

- ・すべての教師の意識を高め、一つの方向にまとめ上げるには時間がかかる。行政としての支援を織り交ぜながら、小中や小の相互交流を進めるとともに、保護者や地域の理解を広げていきたい。常に検証しながら、並行して進めることが大切だと考えている。しかし、子どもを中心にすえた取組をまずは進めなければならない。子どもが中学校に進学する際に、とまどいができるだけ少なくなるよう、小中、小小がしっかりとつながりをもつことが小中一貫教育の最も大切にすべき部分である。その都度、柔軟に、そしていねいに進めていきたい。

◎委員長

- ・スペインにガウディがつくったサクラダファミリアがあるのは有名である。その左側を少し進むと、同じくガウディがつくった学校がある。ガウディはなぜ学校をつくったのか。あのようなすばらしい作品を労働者が「安心」してつくるためには、子どもの教育にも「安心」がなければならないというガウディの考えが根底にあったからであるという話を聞き、感動した。12月の兵庫県の学力向上シンポジウムでは「学びの連続」という言葉、そして、1月の文部科学省の教育研究フォーラムでは「育ちの連続」という言葉が出た。学力だけではなく、子どもの育ちそのものについてわれわれは常に考えていかなければならない。小中一貫教育は、水平次元のものに垂直次元のものを組み合わせていく教育であるが、それを結ぶものは「ひと」とであると考え。そしてそれは、地域創生にもつながっ

ていくものだと考える。ふるさとを思う気持ちを育てるためには、教育はとても重要である。その中核に学校というものがあるが、学校が目に見える建物として存在するのではなく、子どもや教師、保護者や地域が一体となって、子どもにとって不安のない「安心」できる教育を施す場でなければならない。本委員会で話し合われたことが、今後の明石の小中一貫教育をさらに発展させるものとなり、明石市の子どもの健全な発育・発達に結びつき、さらにはふるさと明石の活性化と持続可能な社会の継続に結びつけばよいと考える。ぜひ本委員会で話し合ったことを、教職員のみならず、市民の方々にも広く周知できる方法を考えてほしい。そのためには量的に伝えるものと質的に伝えるもののバランスが大切である。（二見中学校区研究紀要を参考に）データや写真を使って分かりやすく伝えること、親しみやすくシンプルな形で伝えることができるよう工夫してほしい。

#### ○副委員長

- ・「明石市における小中一貫教育の在り方」が本日策定されたことが非常にうれしい。5年後、10年後の明石の教育にとって、今日という日はとても重要な意味をもつ日だと思う。本日で4回の検討委員会が終了した。学校関係者、行政関係者とともに、保護者の方々や一般市民の方々に貴重な意見をいただいたことに意義があったと考える。みなさま、本当にありがとうございました。

#### ●事務局

- ・本日の議論をもとに、「明石市における小中一貫教育の在り方について」の成案を事務局で作成し、本日の議事録と共に委員の皆様へ送付いたします。また、その成案を教育委員会及び議会に報告する予定です。

## 7 閉会